

平成30年7月27日

一般社団法人 京都府建設業協会
会 長 小 崎 学 様

京 都 市 消 防 局 長
荒 木 俊 晴

溶接・溶断等の作業を伴う工事現場における出火防止の徹底について（お願い）

日頃は、本市の消防行政の推進に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

平成30年7月26日午後1時50分ごろ、東京都多摩市の工事中の建物から大規模な火災が発生し、火災原因は調査中ではありますが、多くの死傷者を出すという惨事となりました。

工事現場等において作業を行われる貴協会員（組合員）の皆様におかれても出火防止の徹底に御尽力いただいているところですが、京都市においては、本年5月及び6月の2ヶ月間で溶接・溶断等の火気作業等、類似作業に起因する出火事案が既に4件発生しており、近年、同様の出火事案が増加しているところ です。

これらの各火災の原因を分析すると、作業前後の散水・周囲の確認、現場を離れる際の点検など、もう少し注意を払っていれば火災の発生を防ぐことが可能であったと考えられます。

つきましては、貴協会員（組合員）の皆様には、溶接・溶断等の作業に起因する火災を防止するため下記の注意事項をお知らせいただくとともに、別紙の啓発ビラを御活用いただき、出火防止の徹底が図られるよう御協力をお願いします。

記

溶接・溶断、鉄材等の切断、バーナー等を使用する作業時の注意事項

- 1 工事の主体となる事業者は、施工計画及び管理を行うなかで、やむを得ず火気を使用する作業が発生する場合には火気使用に伴う作業手順書等を策定し、工事請負人、作業員に周知する。
- 2 溶接等の資格を要する作業については確実に作業員の資格確認を行い、無資格者に当該作業を行わせない。
- 3 作業開始前には、周囲の整理整頓、可燃性物品の除去、隣接する建物等への影響も踏まえた防災シートでのカバー、事前散水等を徹底して実施する。
- 4 消火器、水道ホース、水バケツ等を準備し、炎や物が燃えているような臭気を確認したときなど、火災の発生が疑われる場合には迅速に119番通報を行うとともに、複数の作業員が協力して初期消火を行う。
- 5 作業終了後に現場を離れる際の点検において、溶断等の作業後1時間程度は残火がないか臭気も含めしっかり確認する。
- 6 危険物を使用する作業と重複しないように施工管理を行う。

京都市消防局予防部（担当 黒田，篠木）

京都市中京区押小路通河原町西入榎木町450-2

電 話 ; 075-212-6682

F A X ; 075-252-2076

メール ; shihc402@city.kyoto.lg.jp

解体工事，建設工事等を実施される皆様へ



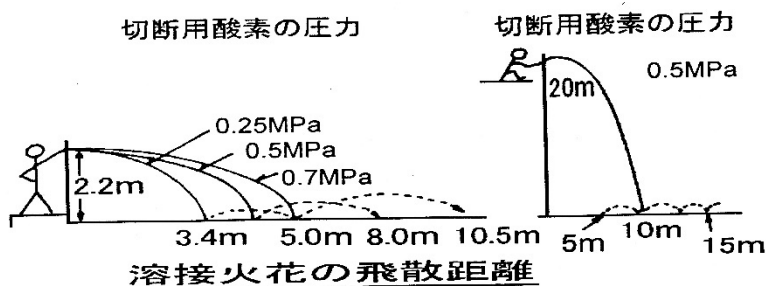
溶断作業等での出火防止を！

溶断・溶接作業中に建物全焼！

- ・断熱材へ着火
- ・付近の木屑や布等に着火し，作業終了後に燃焼拡大

を記入して，注意事項の確認をしてください！

- 周囲を整理整頓し，可燃物の除去・スパッタシート（不燃シート）の使用を徹底
- 作業後に現場を離れる際には，臭気も含め十分に防火点検を実施
- 付近で危険物を使用する作業が行われていないか確認
- 火災の発生が疑われる場合は迅速に119番通報
- 水バケツ，消火器等を用意し，複数の作業員が協力して初期消火



* 溶断・溶接作業における火花の飛散は5m～10mにも及びます。

* 隣接する住宅の軒や窓枠に飛んだ火花による火災も発生しています。

京都市内の工事現場等での火災事例

火災事例1	作業場の屋内において鉄骨の溶断作業を行っていたところ，火花が飛散し，床面の油分が染み込んだ布，紙等に着火 同建物約270㎡，隣接建物2棟約60㎡の合計約330㎡焼失
火災事例2	解体工事中の建物の屋上においてベランダの鉄製物干台を溶断していたところ，火花が階下の木屑等の付近に落下，作業員撤収後に燃焼拡大 同建築物約1，500㎡焼失
火災事例3	鉄骨造3階建ての3階倉庫において溶接作業中に，火花が飛散し，周囲の商品梱包用段ボールに着火，従業員が帰宅後に燃焼拡大 同建物延べ約1，103㎡のうち3階335㎡焼失
火災事例4	解体工事中の元飲食店において溶断作業を行っていたところ，隣接建物1階に置かれていた段ボールに着火，燃焼拡大 隣接建物130㎡焼失，他2棟の一部焼失

(問合せ) 京都市消防局 予防部 予防課

075-212-6672

発行：京都市消防局予防部予防課

京都市印刷物第300026号



グラインダーによる切断作業でも火災が発生しています！

・ グラインダーによる切断作業後出火！

グラインダーを使用し、火花を伴う切断作業を実施していた。その後、作業を終え撤収していた際、切断中に飛散していた火花が周辺にあった着火物に付着し、出火した。

・ なぜ火災が発生するの？

砥石と金属という硬い2種の物体が摩擦、衝撃等により熱を発生します。

この熱によって加熱された切削粉が火花となって飛散するもので、温度は700℃～1,300℃にも達します。

このことから、可燃物がある場合やスパッタシート(不燃シート)を使用していない場合には着火し火災になるおそれがあります。裏面の注意事項を確認してください。



・ 火花を発しやすい金属と発しにくい金属の例

火花を発しやすい金属	鉄, 鋼, 鋳鉄, チタン, ステンレス
火花を発しにくい金属	アルミニウム, 真ちゅう, 銅, ジュラルミン

※火花を発しにくい金属でも、金属に不純物が入っていたりすると、火花が発生する可能性があります。

各署問合せ

北消防署	491-4148	中京消防署	841-6333	下京消防署	361-4411	西京消防署	392-6071
上京消防署	431-1371	東山消防署	541-0191	南消防署	681-0711	伏見消防署	641-5355
左京消防署	723-0119	山科消防署	592-9755	右京消防署	871-0119	醍醐消防分署	571-0474



京都市消防局

KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT